



インガラバー

こんにちは

NPO法人
日本・ミャンマー
医療人育成支援協会
〒700-0023
岡山県岡山市北区駅前町2丁目4番23号
TEL:086-224-0102
URL:http://www.mjcp.or.jp

アウンタバヒエ村で出会った仲良しきょうだい、目が輝いていた
村本記者撮影



手術指導・研究討議・観光

23人 ミャンマー訪問

自分を見つめなおす機会に

協会員を中心に23人が、10月30日から11月4日までミャンマーを訪れた。手術の指導、共同研究の討議、観光…。民主化へ大きく変わろうとするこの国の動きに直接触れるのも、目的の一つでした。

岡山大学形成再建外科 徳山英二郎

私は今年6月まで2年間、東京の病院で小児形成外科を研修し、岡山でも小児形成を始めた。と意気込んで戻って来ました。そんな折、当科の山田潔先生から「ミャンマー行きたくない？」と声をかけられました。「是非行きたいです」と即答したものの、どちらかと言えば行きたくない気持ちのほうが強かったです。

なぜなら私のミャンマーに対する印象は、軍事独裁政権による厳しい言論統制が行われ、さながら北朝鮮と同じような国ではないか。嫁も子供もいる身、何かの間違いで拘束されて帰って来れなくなったらどうしよう、などとまで考えていました。調べてみると、人々は気さくで優しく治安も良いことが書いてあり

にきれいで驚きましたが、携帯電話は通じません。インターネットもつながらず、家族に無事到着したと連絡することもできません。完全に首信不通の状態に、日本での仕事を忘れる良い機会と聞き直つて、さつさとシャワーを浴びて就寝しました。

術が出来るか出来ないかを判断するだけでした。私は主に唇裂患者を診察。10歳以上の未治療患者が多数いて、生後3〜6ヶ月でほぼ全例が手術を受ける日本では考えられない状況でした。日本では唇裂の手術は度手をつけると、成人するまで責任を持って診ていかなければならないため、非常に神経を使います。慎重に切開線をデザインし、メスを2〜3本取り替えながら皮膚切開、止血

後、5〜6種類の糸で寸分のズレもないように縫合するため、2時間前後はかかりました。隣で手術をしていく荒いながらも1時間もかからず終了。ここでは繊細に行うよりも、速さがより求められていることを痛感し、次の患者からは切開のデザインをよりシンプルにし、糸も3〜4種類に減らし、さらにポイントには抑えつつ僅かなズレなどにはこだわらないようにした結果、1時間前後まで短縮することができました。

4日間で唇裂だけで6例執刀。日本ではこれほど集中的に唇裂手術ができることはないため、非常によい経験ができたと思います。現地スタッフの方々もとても優しく、ろくに言葉も通じない日本人の若造の手術を、嫌な顔ひとつせず介助してくれたのが印象的でした。

優しい笑顔と活気があふれて

毎日新聞福山支局 記者 村本 聡



「一緒にミャンマーに行きましょう」。協会理事の西山央子さんに誘われたのは今年4月。広島県福山市で、西山さんが支部長を務める

支部分設を取材したのが縁だった。軍事政権、アウン・サン・スーチーさん、ビルマのたて琴…。思い浮かんだのは乏しい知識で、恥ずかしながら、外国人が入国できるのかさえ知らなかった。海外が好きで、二つ返事で同行した私が初めて見たものは、活気にあふれる町で、たくましく生きる人たちの優しい笑顔だった。

ヤンゴン空港に到着した足で向かったのは、郊外のイエモン村。08年に13万人以上の死者・行方不明者を出したサイクロン「ナルギス」の被災地を中心に、協会の働きかけで日本からクリニックが寄贈されており、この村にも6カ所目が建設される予定。3日目は午前4時すぎにホテルを出発し、ヤンゴンから北西に車で約5時間のアウンタバヒエ村へ井戸に含まれるヒ素を取り除く装置の設置に同行した。外国からほとんど支援

がされていない現場に入れてもらい、貴重な体験をさせていただいた。旅の後半は、ミャンマー屈指の巡礼地とされるヤンゴン郊外のチャイテイヨーにも足を伸ばした。今にも落ちそうなのに、不思議なパランスを取つて落ちることない金色の岩「ゴールデンロック」。岩の上には、高さ約7メートルの仏塔が建つ。同国最大の聖地とされるヤンゴンのシュエダゴン・パゴダといい、ここいい一心不乱に祈りをささげる市民の姿に親しみを覚えた。

町を歩けば、エネルギーに満ちあふれた市民の姿があった。道を尋ねては親切に教えてくれ、市場で飲んだ絞りとたての新鮮なオレンドジュースは、歩き疲れた体に染み渡った。「この人たちの笑顔を守りたい」。現地を訪れ、そこで暮らす人々と実際に交わり、私は安心して暮らせる医療環境の必要性を痛感した。民主化に向けて動き出したミャンマーだが、ずっと以前から支援に取り組んでこられた協会の活動に改めて敬意を表します。



手術前に診察する徳山医師
山田潔(総合病院)

ミャンマー訪問

めざす国の形になじむ医療を

岡山大学医学部
5年生
井川 卓朗



今回かねてからの希望が叶い、ミャンマーを訪れる機会を得た。

ヤンゴンでは子宮頸癌の細胞診やB型肝炎のワクチン接種を行っている診療所を見学した。ミャンマーではB型肝炎のキャリアが日本より遥かに多いようで、注射針の使いまわしなど日本では既に克服した医療問題に悩まされているようであった。



ネピドー総合病院ではオペ室を見学したが、予想に反して設備が充実しており

近代的な医療が行われていた。全身麻酔は旧式の機械を使用していたが日本のそれと遜色ないので、顕微鏡下のオペも行われていて大変驚いた。オペ室の入口付近では、患者の家族が列

をなして待機しており、レベルの高い医療に対する期待の高さがうかがえた。

現地の医師の話によると、金持ちは医療をうけることができるが、貧乏人は医療介入を待つことなく死んでいくのだそうだ。

ミャンマーに対する医療支援は大変意義のあるものであることは間違いない。しかし、私は西洋的な価値観を基礎におく現代医療の導入がミャンマーの仏教国として

診察を待つ母子
ネピドー総合病院、筆者撮影

「最新の技術を習得しました」 ミン・ミン・ウィン医師 帰国

協会の招きで9月に来日したミャンマーのミン・ミン・ウィン医師(37)が岡山大学での研修を終え、次のような礼状を託して12月1日、帰国しました。

私はこれまで外国に行ったことはありませんでした。まして一人ぼっちでの外国行き。だから最初は日本人に交じって生活するこ



研修中のミン・ミン・ウィン医師
＝岡山大学医学部

とはとても心配でした。しかし、日本に着いたその日から、私は家族と別れたことの淋しさがひきおこす孤独感を感じませんでした。それは岡山の人たちが私を温かく迎え、心地よく私を助けてくださったからです。

研究室での最初の数週間は、研究者がしている仕事を勉強しているだけなので退屈でした。でも、見学は器具や機器の操作方法を勉強する方法の一つだと納得するようになりまし

た。私にはこのような最新の技術は経験がありませんでした。論文で知っていただけです。今は、この最新の技術もある程度習得することができました。私はミャンマーでも同じような研究を続けることに努力したいと考えています。

大阪の博物館、京都の金閣寺、広島や尾道、倉敷福山などを訪ねました。これらの場所は大変美しく楽しい小旅行となりました。岡山の生活も楽しく過ごし

ました。NPOの方々、とくに岡田茂先生や西山央子理事には大変お世話になりました。皆さんは私を家族のように扱ってください、親切で色々とお助けしてくれました。

研究では岡山大学大学院医歯薬総合研究科免疫病理学の先生方に感謝を申し上げます。特に松川昭博教授は研究室での研修を許可し、実りある実験を行わせてくださいました

ことに感謝いたします。岡山に滞在中私を助けて下さり、楽しい研修生活を送らせて下さった皆様に心からお礼申し上げます。

岡山を離れ、とてもさみしく感じていきます。皆様と一緒にできたこの思い出は一生忘れません。機会があればぜひお会いしたいと思えます。大変有難うございました。

広報室から

今年3月、ミャンマーに新政権が発足し、いよいよミャンマーの民主化が始まった。

先日アメリカのクリントン國務長官がミャンマーを訪問し、アウン・サン・スー・チー女史と会談したと報道されたが、この二人のツーショットは、ミャンマーだけの変化ではなく、世界中が変わっていく象徴のよう

に感じられて、驚きとともに明るい未来を感じずにはいられなかった。各国で停止されていたミャンマーへのODA(政府開発援助)も再開へ

動き出し、また2014年にはミャンマーがASEAN(東南アジア諸国連合)の議長国を務めることになり、国際社会の本格的復帰が期待される。

私も、今年3月と11月にミャンマーを訪問したが、特に11月の時にはヤンゴンの街が様変わりしているのに仰天した。ごみごみした屋台やトラックの乗り合いバスは見当たらず、今までは見ることもなかった金

心と自然はそのままに

が、人々が平和で幸せに暮らせることが一番だ。いろいろな国から支援を受けることができれば、ミャンマーの人々の暮らしもきっと良くなるに違いない。医療においても同じだ。世界の新しい医療技術が、かの国で享受され、一般の人々が当たり前の様に病院に行くことができれば、それは私たちの協会のねがいでもあるのだ。

ミャンマーが、これからのように変わっていくのか。温厚で親しみやすい人々の心や美しい自然は、そのままに思うは欲心であろうか。

(福山支部長 西山央子)

京都東ロータリークラブ 車いす20台贈る

現地新聞も掲載



車いす贈呈式あとの記念撮影
＝ヤンゴン市内

京都東ロータリークラブ(別所敬之会長)が車いす20台を今回のミャンマー訪問団に託し、協会の岡田茂理事長がヤンゴン市内で保健省の関係者に贈りました。この贈呈式の模様は地元新聞2紙に掲載されました。同クラブは「昨年車いす20台を贈っています。」

また協会の西山央子理事はミャンマー元日本留学生協会の日本語教室にピアノを寄付しました。

協会だより

事務室を移転

これまで岡山市北区番町2丁目6番7号においていた協会事務室を移転しました。新しい事務室は岡山駅から歩いて約5分の至便なところです。住所と電話などは次の通り。

〒700-0023
岡山市北区駅前町2丁目4番23号
電話 086-224-0102
ファックス 086-221-2554
E-mail: office@mjcp.or.jp
URL: http://www.mjcp.or.jp

新理事に岡阪さん

協会の新しい理事に岡阪美佐夫・岡山放送報道部長が就任しました。

会員は474人

12月現在で、協会の正会員は462人、賛助会員は12人です。